

4 観光

	タイトル	意見等
1	四国知事会議	。 後藤田正純徳島県知事は四国知事会議を通じて、愛媛県知事さんと共にスポーツを通じて、徳島インディゴ・ソックス対愛媛マンダリン・パイレーツの野球対決、新BJ2の徳島ガンバローズ対愛媛オレンジ・バイキングのバスケットボール対決、J2の徳島ヴォルティス対FC今治のサッカー対決のスポーツ三番勝負で、徳島県の小松島やまもとと愛媛県の愛媛みかんの柑橘系ダービー対決を盛り上げていかなければならない。又、鳴門市の撫養塩と今治市の伯方の塩の塩ダービー対決による地域地場産業対決も盛り上げていかなければならない。
2	徳島新ホール計画における知事の公約違反・税金浪費・言論統制に関する抗議	知事に申し上げます。 2023年の知事選で「1800席・200億円は高すぎる、工事費を半分に抑える」と公約し当選されました。しかし現実はどうでしょうか。 旧計画を覆し、建設地を変更し、土地を返還し、事業者公募を2度行った結果、新計画の建設費は200億円を超えました。削減どころか、旧計画より高くなっています。これは公約違反です。その間に投入された調査費・移転費・公募費はすべて県民の税金です。何のために旧計画を潰したのか、県民には全く理解できません。 実施設計まで完了し、工務店も決まり、2027年開館目前だったものを白紙に戻した。その判断のツケを、今まさに県民が払わされています。 さらに許しがたいのは、今年6月に日本建築家協会が主催する石上純也氏の展覧会を、開催3日前に県有地を盾に中止させたことです。県民が旧計画の全容を初めて知る機会を、「県のまちづくりにつながらない」という理由で潰しました。これは情報隠蔽であり、民主主義の根幹である県民の知る権利を侵害するものです。石上氏自身が「現代の日本でこのようなことが起きるとは想像していなかった」と公の場で述べています。国際的な建築家にそう言わせる県に、誰が次のプロジェクトを任せようとするのでしょうか。 徳島県の信用は建築業界において地に落ちています。 知事は「タイムスリップすることはない」「前に進んでいる」と繰り返されます。しかし県民が見ているのは、公募2度失敗、費用は増大、計画は迷走、情報は隠蔽という現実です。タイムスリップしているのは、公約を果たせないまま言い訳を重ねる知事自身ではないでしょうか。 公共ホールは竣工後、数十年・百年単位で県民が使い続ける施設です。拙速な政治判断で後世に禍根を残すことは絶対に許されません。 以下を強く要求します。 1. 知事就任後、旧計画変更に関連して投入した全費用の総額を即時開示すること 2. 展覧会中止に至る県の判断過程と、誰が指示したかを公表すること 3. 今後の計画について、根拠ある費用・スケジュール・場所を県民に明示すること 4. 「工事費を半分に抑える」という公約が達成不可能であったことを、県民に正式に謝罪すること 「前に進んでいる」と断言するならば、言葉ではなく結果で示してください。県民は見ています。
3	すだちジュースを広めたい	愛媛県は、みかんジュースが水道から出ると聞いたことがある。徳島県も阿波踊り期間など観光客が多い期間限定で、阿波踊り空港や観光客が集まるところで、すだちジュースをセルフサービスで飲めるシステムを作ってはどうか。 (もしかしたら既に実行していて僕が知らないだけかもしれませんが。)

4 観光

	タイトル	意見等
4	Abemaを見て	徳島県民・徳島市民として、今回の新ホール計画には強い疑問を感じています。 特に、私は当初の石上さんの設計案の方が、今の案よりもずっと良かったと思っています。 最初の案には、まだ納得できる魅力や方向性がありました。 それに対して、今の進め方は、なぜ変更になったのか、何を優先して今の案になったのかが見えず、県民・市民として非常に不信感があります。 事業費、設計の妥当性、維持管理費、周辺との関係など、説明が不十分なまま話が進んでいるように感じます。 これだけ大きな事業であれば、もっと丁寧に説明し、県民・市民の声を聞くべきです。 少なくとも、「最初の石上案の方が良かったのではないか」という点について、なぜ変更されたのか、どこが問題だったのかをはっきり説明してください。 県民・市民を納得させられないまま巨額の事業を進めることには、強く反対します。